

### 第 3 7 期 計 算 書 類 等 目 次

自 令 和 4 年 4 月 1 日

至 令 和 5 年 3 月 3 1 日

書 類	-----	頁
事 業 報 告	-----	1
貸 借 対 照 表	-----	8
損 益 計 算 書	-----	9
製 造 原 価 報 告 書	-----	10
株 主 資 本 等 変 動 計 算 書	-----	11
個 別 注 記 表	-----	12
監 査 役 監 査 報 告 書 謄 本	-----	14

# 事業報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

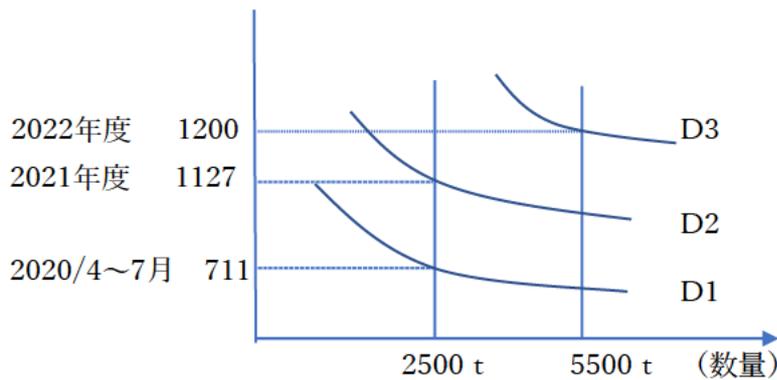
## 1 株式会社の現況

### (1) 事業の経緯及びその結果

本年度の日本経済は3年間に及ぶ新型コロナウイルスに伴う行動制限、長期化するロシアのウクライナ侵攻により円安の進行、輸入インフレに伴う原材料の高騰が続き、特に鯨肉の大きなマーケットである外食産業が相当な痛手を被り、ウネス1級などの高級部位の販売が減少傾向にありました。

このように難しい舵取りが要求される中、当社では次の取組みにより売上の増加、利益構造の大幅改善、将来の経営の基盤作りを進め、予定を2年間前倒しして当期黒字化を成し遂げることができました。

#### ① プロモーションによる需要の喚起を通じた販売単価の上昇



「鯨は食のダイヤモンドだ！」を合言葉に豊洲、仙台、大阪、下関に生肉を上場し、最高値50万円/kgという鯨肉市場最高値の記録を樹立。大きくメディアに取り上げられました。

その他数多くのプロモーション、R&Dを政府の補助をいただいて実施。

需要曲線の上方シフトを通じて、その結果年間平均販売単価を1200円にまで上昇させる事ができました。

なお、本年度よりプロモーションのスローガンに「鯨を食べて海のSDGsに貢献しよう」を追加し、より多くの消費者に鯨肉を受入れていただくよう努めてまいりました。

#### ② 製造原価の低減努力

これまでキャッチャーボードを操業以外の目視調査に振向ける他、歩留の向上等による生産量のUP、修繕費の削減を通じたコストダウンを行ってきましたが、当期より第三勇新丸を冬季に南極海の調査に使っていただき、さらなるコストの削減を試みました。

③ **社員教育の充実**

幹部に対する経営者養成セミナーの受講及び乗組員に対する資格取得支援、報奨金制度は継続的に行っております。

経理職員に対する外部専門学校での集中教育を実施しました。

④ **人事・労務管理の充実**

社会保険労務士を半常駐化し徹底的に人事、労務、管理技能を高めていく事としました。

⑤ **新母船建造に着手**

2023年2月10日新母船の着工安全祈願祭を行い、鉄板の切出しを開始致しました。

3月7日 命名式 下関の公募により「関鯨丸」と命名されました。

⑥ **無人店舗鯨肉販売のスタート**

原料メーカーである当社が鯨肉の消費者ニーズをダイレクトに収集するため、梹谷、大井町、横浜元町、大阪梅田4ヶ所にて無人店舗を開設致しました。

思いのほか売れたので補充体制の確立が急務です。

⑦ **アイスランドナガス鯨 2700t一括購入**

かねてより計画していたアイスランドナガス鯨2700t一括購入に関しては、市中銀行等からの資金調達が目途がたち契約書を締結しました。

2月には全量下関港に到着し通関を行いました。

～ **営業成績について** ～

おかげ様で商業捕鯨再開4年目でやっと黒字化する事ができました。

当社では商業捕鯨と目視調査等貸船事業を行っていますが、貸船事業は管理コスト8%のみが粗利であり、営業収支はトントンです。

従って当社の営業利益は概ね商業捕鯨による利益と考えられます。

当期の売上は	3162M	(前期比 約441M増)
営業利益	203M	(前期比 約231M増)
経常利益	198M	(前期比 約308M増)
当期利益	156M	(前期比 約349M増)
期末純資産	460M	(前期比 約156M増)

第37期の各事業の概況は、次のとおりです。

《母船式捕鯨操業》

① 1次操業(宮城沖から青森沖)

6月7日から7月10日まで房総沖から青森沖で実施し、ニタリクジラ50頭を目標とし、第三勇新丸は6月7日に瀬戸田から、日新丸は6月8日に因島から出港し、7月10日に日新丸と第三勇新丸は仙台に入港しました。

計画の50頭のニタリクジラを捕獲し、冷凍品356tを生産しました。また仙台で氷蔵肉約2tを陸揚げしました。

船名	出港地	出港日	入港地	入港日	航海日数		
日新丸	因島	R4.6.8	仙台	R4.7.10	33	ニタリクジラ	50頭
第三勇新丸	下関	R4.6.7	仙台	R4.7.10	34	生産数量	356t

② 2次操業(宮城沖から青森沖)

7月14日から9月13日まで宮城沖から青森沖で実施し、ニタリクジラ100頭を目標とし、第三勇新丸は7月14日、日新丸は7月15日に仙台から出港し、氷蔵肉の東京陸揚げのため途中5日間の中断を経て、9月13日に日新丸と第三勇新丸は仙台に入港しました。計画を下回る97頭のニタリクジラと1頭のイワシクジラを捕獲し、両鯨種あわせて冷凍品691t生産し、氷蔵肉は東京で約2.6t、仙台で約0.5t陸揚げしました。

船名	出港地	出港日	入港地	入港日	航海日数		
日新丸	仙台	R4.7.15	仙台	R4.9.13	61	ニタリクジラ	97頭
第三勇新丸	仙台	R4.7.14	仙台	R4.9.13	62	イワシクジラ	1頭
						生産数量	691t

9月13日深夜、菅原崇臣さんが日新丸にて転落して亡くなりました。

③ 3次操業(青森沖から道東沖)

9月21日から11月12日まで青森沖から道東沖で実施し、ニタリクジラ20頭、イワシクジラ25頭を目標とし、日新丸と第三勇新丸は9月21日に仙台から出港し、11月12日に日新丸は下関に、11月9日に第三勇新丸は石巻に入港しました。

2次操業の取り残していた分も含めニタリクジラ40頭とイワシクジラ24頭を捕獲し、両鯨種あわせて冷凍品594t生産し、氷蔵肉は大阪で約2t、仙台で約2t陸揚げしました。

船名	出港地	出港日	入港地	入港日	航海日数		
日新丸	仙台	R4.9.21	下関	R4.11.12	53	ニタリクジラ	40頭
第三勇新丸	仙台	R4.9.21	石巻	R4.11.9	50	イワシクジラ	24頭
						生産数量	594t
						3漁期合計数量	1641t

《円滑化実証等対策事業》

① 漁場探索および氷蔵肉運搬テスト

勇新丸が10月5日から11月11日までの38日間で道東沖の漁場探索を行うとともに、大阪で氷蔵肉の陸揚げを実施しました。

#### 《北太平洋鯨類資源調査事業》

① 春期鯨類資源調査事業

日鯨研が実施した北太平洋の鯨類資源調査船として、勇新丸と第二勇新丸が4月14日から5月23日までの40日間用船されました。

② 夏期鯨類資源調査事業

日鯨研が実施した北太平洋の鯨類資源調査船として、勇新丸が8月2日から9月30日までの60日間用船されました。

③ UAV飛行試験事業

日鯨研が実施したUAV飛行試験の調査船として、勇新丸が4月6日から4月9日までの4日間、5月27日から5月30日までの4日間、7月26日から7月29日までの4日間、3月25日から3月29日までの5日間、4回の航海で合計17日間用船されました。

#### 《IWC/日本共同北太平洋鯨類資源調査事業》

日鯨研が実施したIWC/日本共同北太平洋鯨類資源調査の調査船として、第二勇新丸が8月2日から9月30日までの60日間用船されました。

#### 《南極海鯨類資源調査事業》

日鯨研が実施した南極海の鯨類資源調査船として、第二勇新丸と第三勇新丸が12月5日から3月13日までの99日間用船されました。

#### (2) 設備投資の状況

第三勇新丸の外航化工事（97百万円）、新商品開発のための機械装置（30百万円）等を行いました。

#### (3) 資金調達の状況

長期借入金(第三勇新丸建造資金)の1億4千万円を返済し、期末残高2億7千万円となり、新母船建造資金として17億74百万円を借入れ、期末残高34億13百万円となりました。また、操業支援資金として8億4千万円借入れました。

## (4) 当期および直前三事業年度の財産及び損益の状況

区 分	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売 上 高	2,629,171千円	2,417,577千円	2,721,487千円	3,161,555千円
営 業 利 益	△715,290千円	△833,751千円	△27,958千円	202,881千円
当 期 純 利 益	103,515千円	202,834千円	△192,870千円	155,789千円
1株当たりの当期純利益	20,620円53銭	40,405円37銭	△38,420円35銭	31,033円72銭
純 資 産	293,867千円	496,702千円	303,832千円	459,621千円

## 当期売上高の事業別内訳

事 業 別	売 上 高	備 考
操 業 鯨 肉 販 売	1,867,447千円	操業水揚鯨肉販売
貸 船 料 収 入	1,037,297千円	目視調査事業への貸船
仕 入 鯨 肉 等 販 売	108,159千円	仕入鯨肉等販売
そ の 他 収 入	148,650千円	公益販売助成等
計	3,161,555千円	

## (5) 対処すべき課題

当社ではこれまで鯨肉卸売市場を5500 tキログラム単価1200円で66億円市場規模創造を目指してきましたが、原材料の高騰、人件費のUP等経営環境の変化に対応するため、品質及び価値を上げ、単価をさらに上げていきます。  
新しい市場規模創造の目標を2027年3月期5500 t 80億円として活動してまいります。そして、消費者に満足していただいた上で捕鯨に携わる加工、流通、飲食等産業全体を明るく楽しく発展させてまいります。

## ～ 新年度の取組み ～

## ① アイスランド鯨肉販売促進

2023年5月、アイスランド産ナガス鯨2700 t、全量を当社で一括購入し、名義変更もすでに終了しております。  
当期保管料、金利等約1億円の負担増となりますが、利益を確保した上で2年程度で全量販売を目指します。

## ② 売れにくい部位の販売対応

国内産、アイスランド産ともに売りにくい部位の在庫量が増加する事が予想されます。

- 加工業者に対する新製品開発販売支援
- 自社工場による2次原料の開発販売（現在大阪を予定）

## ③ 無人店舗販売による顧客コミュニケーションツールの開発

- 消費者ニーズを反映させた製品開発の仕組作り
- 消費者ニーズを反映させたプロモーション手法
- 業界全体への情報伝達

## ④ 機能性研究の深堀

- バレニン～なぜ疲れなくなるのか？運動能力が上がるのか？  
認知症の予防ができるのか？
- 鯨肉のサプリメント化・・・人、ペット
- 鯨肉による腸内フローラの改善効果

## ⑤ プロモーション活動の継続

## ー スローガン

- 鯨は食のダイヤモンドだ！
- 鯨を食べて海のSDGsに貢献しよう
- 商業捕鯨でも100年たっても一頭も減らない量しか捕っていない  
しかも全て遺伝子を登録、究極のトレーサビリティシステムで管理されている。

## ー 生肉の上場

大阪（6月）・仙台（8月）・豊洲（9月）・下関（11月）

- 一 その他地域活動  
新潟・富山・長野 ラジオイベント（4月）  
青森（7月～9月）

- ⑥ 新母船「関鯨丸」  
8月31日 進水式  
3月 竣工式

このように新年度も盛りだくさんのメニューを全社一丸となって進めて黒字を継続させてまいります。

- (6) 主要な事業内容  
鯨肉販売・・・・・・・・・・操業鯨肉、及び仕入鯨肉等の販売  
貸船事業・・・・・・・・・・鯨類目視調査事業等に関連する貸船事業

- (7) 主要な営業所および船舶  
営業所・・・・・・・・本社《東京》、新橋営業所、関西営業所（大阪）、  
下関出張所（下関）  
船舶・・・・・・・・捕鯨母船 1 隻・独航船 3 隻 合計 4 隻

- (8) 使用人の状況

区 分	員数	前期末比増減	平均年齢
陸上従業員	28名	7名	43.3才
海上従業員	122名	△15名	38.4才
計	150名	△8名	39.3才

- (9) 主要な借入先の状況

借 入 先	期 末 借 入 金 残 高
公益財団法人海外漁業協力財団	4,523,739,850 円
株式会社商工組合中央金庫	500,000,000 円
株式会社きらぼし銀行	91,666,000 円

## 2. 株式に関する事項

株式の状況 (令和5年3月31日現在)

①発行可能株式総数	7,600	株
②発行済株式総数	5,730	株
③株主数	7	名
④株主		

株主名	持株数	持株比率
公益財団法人 漁船海難遺児育英会	980 株	19.5 %
公益財団法人 下関海洋科学アカデミー	980	19.5
一般財団法人 全日本海員福祉センター	980	19.5
一般財団法人 日本鯨類研究所	980	19.5
一般財団法人 農林水産奨励会	980	19.5
所 英 樹	80	1.6
細 根 賢 一	40	0.8
計	5,020	100.0

注：当社は、自己株式710株を保有しておりますが、上記表より除いております。

### ⑤自己株式の取得、処分等および保有

決算期末	普通株式	710株
保有株式		

## 3. 会社役員に関する事項

取締役および監査役

代表取締役社長	所 英 樹
専務取締役	細 根 賢 一
取締役(常勤)	森 正 克
取締役(非常勤)〈一般財団法人 日本鯨類研究所 理事長〉	藤 瀬 良 弘
取締役(非常勤)〈一般社団法人 日本捕鯨協会 代表理事〉	山 村 和 夫
取締役(非常勤)〈三坂商事 株式会社 代表取締役社長〉	稲 葉 健 太
監査役(非常勤)〈中田晃 税理士事務所 税理士〉	中 田 晃

1) 監査役中田 晃氏は、税理士の資格を有し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

2) 当期中における取締役の異動

令和4年6月23日開催の株主総会をもって、所英樹氏、細根賢一氏、藤瀬良弘氏、山村和夫氏、稲葉健太氏の5名が取締役に重任、森正克氏が新任されました。宮本俊和氏は任期満了につき退任されました。

2022年9月15日  
共同船舶株式会社

### 日新丸乗組員の転落事故について

すでに一部のメディアで報道されておりますように、13日深夜、仙台港に係留中の捕鯨母船・日新丸の乗組員が上甲板左舷から海に転落し、死亡するという痛ましい事故が発生いたしました。

死亡したのは今年3月に入社した三等機関士（23歳）で、転落時はすでに作業を終えていたため救命胴衣は着用していませんでした。

転落からおよそ1時間後に救急隊が到着し、ダイバーにより海中で発見され、病院へ緊急搬送されましたがその後、死亡が確認されました。

この痛ましい事故を受け、本日12時30分からは、日新丸の上甲板に乗組員全員が集まって追悼式を執り行い、亡くなった同胞の早すぎる死を偲び、全員で黙とうをささげました。また、黙とうと同時に日新丸では汽笛を鳴らして故人との別れを惜しみました。

亡くなった乗組員の葬儀は、17日午前、仙台市内で執り行われます。



写真：（左上）日新丸の甲板で執り行われた追悼式、（右上）黙とうをささげる乗組員、（左下）事故現場で手を合わせる所英樹社長、（右下）日新丸では半旗で故人への弔意を捧げる

## 新母船建造進捗報告

### 記

昨年は2月23日に旭洋造船と建造契約を締結したのち、5月に水槽試験を実施、その後は仕様と図面の精査をおこなってきました。

今年に入り、2月10日に建造開始安全祈願祭をおこない鋼材の切り出しを開始、いよいよ船体の建造がはじまりました。また、3月7日には命名権を譲渡しておりました下関市より公募の結果、新母船の船名が「関鯨丸」になったことが公表されました。

工事は当初の計画通りに進んでおり、6月21日には新造ドックに最初のブロックが搭載されることになっており起工式を実施いたします。また8月31日の進水、来年3月31日竣工でも式典の開催を予定しています。

- 2022年2月23日 建造本契約
- 2022年4月11日 キックオフ会合
- 2022年5月19日 水槽試験
- 2023年2月10日 建造開始安全祈願祭(鋼材加工開始)
- 2023年6月21日 ブロック搭載起工式(ブロック搭載開始)
- 2023年8月31日 進水式(進水・出渠)
- 2024年3月31日 竣工・引渡式(引き渡し)

以上

# 捕鯨新母船 関鯨丸 2024年3月竣工予定

関鯨丸は、全長112.6m、船幅21m、総トン数約9100t、山口県下関市の旭洋造船株式会社で建造しています。

将来ナガス鯨が捕獲できるように70トンの揚鯨能力を備え、解剖甲板を船内に移すことで衛生環境を強化します。

また、冷艙をリーフアークテナに変えることで製品管理の強化と製品荷役の効率化を実現するなど、将来の捕鯨業に適応した電気推進船です。

竣工後は30年間稼働を続け、鯨肉の安定供給に貢献します。



## 第2号議案 取締役6名選任の件

現取締役の所英樹、細根賢一、森正克、藤瀬良弘、山村和夫、稲葉健太の6氏が本総会終結の時をもって任期満了となります。

所氏、細根氏、森氏、山村氏、稲葉氏の5名については引き続きご尽力戴きたく重任の選任をお願いするものです。

又、当社取締役については、経営実務を行う者と経営管理に精通した者（非常勤を含む）として、実行力とガバナンスを兼ね備えた役員会の構成を目指して、新たに立木吉広氏を選任することをお願いしたい。

尚、藤瀬取締役は、任期満了で退任することをご報告いたします。

取締役選任候補者

### 【重任】

	氏名 (生年月日、年令)	現役職名 (所有する当社の株式数)
常勤	所 英樹 (昭和29年8月26日 68歳)	代表取締役 (80株)
常勤	細根 賢一 (昭和38年11月8日 59歳)	専務取締役 (40株)
常勤	森 正克 (昭和49年2月9日 49歳)	海上事業本部長 (持ち株なし)
非常勤	山村 和夫 (昭和22年7月27日 75歳)	(一社)日本捕鯨協会代表理事 (持ち株なし)
非常勤	稲葉 健太 (昭和47年4月3日 51歳)	三坂商事(株)代表取締役社長 (持ち株なし)

### 【新任】

	氏名 (生年月日、年令)	現役職名 (所有する当社の株式数)
常勤	立木 吉広 (昭和44年4月18日 54歳)	管理本部経理部長 (持ち株なし)

**第 37 期 決 算 の 要 旨**

令和5年7月25日

**損益計算書の要旨**

東京都中央区豊海町4番5号  
共同船舶株式会社

自 令和 4 年 4 月 1 日  
至 令和 5 年 3 月 31 日  
(単位：千円)

**貸借対照表の要旨**

(令和5年3月31日現在) (単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	5,167,409	流 動 負 債	1,572,307
固 定 資 産	3,932,149	固 定 負 債	7,067,629
		<b>負 債 合 計</b>	<b>8,639,936</b>
		資 本	50,000
		資 本 剰 余 金	53,264
		利 益 剰 余 金	391,858
		自 己 株 式	△ 35,500
		<b>純 資 産 合 計</b>	<b>459,622</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>9,099,558</b>	<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>9,099,558</b>

科 目	金 額
売 上 高	3,161,556
売 上 原 価	2,349,474
売 上 総 利 益	812,082
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	609,200
営 業 利 益	202,882
営 業 外 収 益	447,672
営 業 外 費 用	452,575
経 常 利 益	197,979
特 別 損 失	41,606
税 引 前 当 期 利 益	156,373
法人税、住民税及び事業税	584
当 期 純 利 益	155,789